

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866

住 所 川崎市川崎区水江町4-3

氏 名 日東亜鉛株式会社

代表取締役社長 本野 晃司 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します

事業者の氏名 又は名称	日東亜鉛株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町4-3		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	23	非鉄金属製造業
主たる事業 の内容	鋼管・鋼構造物に対する溶融亜鉛めっき業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,351	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO ₂)	(実) 4,789	(実) 4,599	(実) 4,845	(実) 4,654	(実) 4,645
	(調) 4,809	(調) 4,604	(調) 4,728	(調) 4,654	(調) 4,665
削減率		(実) 4.0 %	(実) -1.2 %	(実) 2.8 %	(実) 3.0 %
		(調) 4.3 %	(調) 1.7 %	(調) 3.2 %	(調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	めっき量				原単位等の単位	t-CO ₂ /1000 t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
排出量原単位等の値	134.5	126.0	125.5	132.2	130.4	
活動量の値	35.6	36.5	38.6	35.2	-	
排出量原単位等の削減率		6.3 %	6.7 %	1.7 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	①蒸気使用量は前年比-13.3%となったことで、温室効果ガス排出量の減少となった。原単位は製品生産量が前年比+2.6%のため減少した。	
第2年度	①蒸気使用量は前年比+2.4%②ガス使用量は+1.6%③電力使用量は+13.4%と増加しております。温室効果ガス排出量の増加となった。原単位は製品生産量が前年比+5.6%のため減少した。	
第3年度	①蒸気使用量は前年比-9.2%②ガス使用量は-1.5%③電力使用量は+2.4%と増加しております。温室効果ガス排出量の減少となった。原単位は製品生産量が前年比-8.7%となりましたが、基準年度からは減少した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		第1,2年度は活動量が高くなったため、排出量原単位の削減率目標値を達成していたが、第3年度は活動量が減少したため、目標値を下回る結果となりました。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		生産量の減少を増やすことができるように営業活動を行う、排出量原単位を削減できるように、エネルギーの使い方を再検討する。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①工場前処理槽外面に保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする。②工場前処理槽の温度設定を見直して、蒸気使用量の削減をする。③工場前処理槽蓋も保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする。④亜鉛めっき炉の操業停止中の設定温度、時間を見直して、ガス使用量の削減をする。⑤廃液処理施設の脱水機を更新して、廃棄物の減量化を図る。</p>
<p>第1年度</p>	<p>①工場前処理槽外面に保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする。(2022.08) ②処理槽の温度設定を見直して、蒸気使用量の削減をする。(2022.04) ③工場前処理槽蓋も保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする。④亜鉛めっき炉の操業停止中の設定温度、時間を見直して、ガス使用量の削減をする。(2023.12) ⑤廃液処理施設の脱水機を更新して、廃棄物の減量化を図る。(2022.08) ⑥鍍金炉の燃焼空気比の見直し、調整による都市ガスの削減を図る(2022.04)(追加実施)</p>
<p>第2年度</p>	<p>①工場前処理槽外面に保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする ②処理槽の温度設定を見直して、蒸気使用量の削減をする ③工場前処理槽蓋も保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする ④亜鉛めっき炉の操業停止中の設定温度、時間を見直して、ガス使用量の削減をする。(2023.12) ⑤廃液処理施設の脱水機を更新して、廃棄物の減量化を図る ⑥鍍金炉の燃焼空気比の見直し、調整による都市ガスの削減を図る(追加実施) ⑦工場熱交換器を定期的に清掃することで蒸気使用量の削減を図る(2024.03)(追加実施)</p>
<p>第3年度</p>	<p>①工場前処理槽外面に保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする ②処理槽の温度設定を見直して、蒸気使用量の削減をする ③工場前処理槽蓋も保温材を貼り付けて、蒸気使用量の削減をする ④亜鉛めっき炉の操業停止中の設定温度、時間を見直して、ガス使用量の削減をする。(2023.12) ⑤廃液処理施設の脱水機を更新して、廃棄物の減量化を図る ⑥鍍金炉の燃焼空気比の見直し、調整による都市ガスの削減を図る(追加実施) ⑦工場熱交換器を定期的に清掃することで蒸気使用量の削減を図る(2024.03)(追加実施) ⑧生蒸気、熱交換器ドレンを前処理槽に戻すことで、蒸気使用量の削減を図る(追加実施)</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>蒸気に関しては、省エネの効果が出すことができた。都市ガスに関しては目に見える効果が出なかった。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	廃棄物の排出量の把握、減量化を図る。
第1年度	廃棄物の排出量の把握、減量化を図った 第一年度 廃塩酸：1001 t 脱水汚泥：113 t (めっき量：36530 t) 基準年度 廃塩酸：796 t 脱水汚泥：165 t (めっき量：35595 t)
第2年度	廃棄物の排出量の把握、減量化を図った 第二年度 廃塩酸：899 t 脱水汚泥：87 t (めっき量：38559 t) 第一年度 廃塩酸：1001 t 脱水汚泥：113 t (めっき量：36530 t) 基準年度 廃塩酸：796 t 脱水汚泥：165 t (めっき量：35595 t)
第3年度	廃棄物の排出量の把握、減量化を図った 第三年度 廃塩酸：854 t 脱水汚泥：90.2 t (めっき量：35190 t) 第二年度 廃塩酸：899 t 脱水汚泥：87 t (めっき量：38559 t) 第一年度 廃塩酸：1001 t 脱水汚泥：113 t (めっき量：36530 t) 基準年度 廃塩酸：796 t 脱水汚泥：165 t (めっき量：35595 t)

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	4,789 t-CO ₂	4,599 t-CO ₂	4,845 t-CO ₂	4,654 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,444 KL	2,327 KL	2,415 KL	2,351 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
日東亜鉛株式会社 川崎工場	川崎市川崎区水江町4-3	4,789	4,599	4,845	4,654

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度